授業科目	教育相談とカウンセリング					実務家教員担当科目	-
単位	2	履修	選択	開講年次	2	開講時期	後期
担当教員	菅原　航平						
授業概要	教育相談は、幼児児童生徒が自己理解を深めたり、好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力や学ぶ力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。また、幼児期においては、保護者に対する教育に関する相談も重要となる。 幼児児童生徒の発達の状況や家庭環境に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識を身に付けるために、講義だけでなく、ロールプレイやグループでのディスカッションなどアクティブラーニングを通して学習する。						
授業形態	講義			授業方法	GoogleClassroom を活用し資料配布や課題提出等を行う。 一部 Youtube 等を活用したオンデマンド授業を実施する。なお、実施回や内容は実習期間や悪天候による 休講等の調整ため変更の可能性がある。		

学生が達成すべき行動目標	
標準的レベル	①学校における教育相談の意義や理論の要点を説明することができる ②教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的事項を含む）の要点を説明することができる。 ③教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取組みや連携の必要性の要点を説明することができる。
理想的レベル	①学校における教育相談の意義や理論の要点を理解した上で、教師としての役割を例示しながら説明できる ②教育相談を進める際に必要な基礎的知識の要点を理解した上で、カウンセリングマインドを習得しつつある ③相談の進め方や学校内外での連携の要点を理解した上で、具体的な対応について例示して説明できる

評価方法・評価割合

評価方法	評価割合（数値）	備考
試験		
小テスト	20%	授業内容に関する多肢選択や記述テスト
レポート	25%	中間・期末レポート
発表（口頭、プレゼンテーション）		
レポート外の提出物	45%	予習課題、授業内の課題、毎回の感想・質問等
その他	10%	グループワークやロールプレイへの参観など授業態度等

カリキュラムマップ（該当 DP）・ナンバリング

DP1	-	DP2	○	DP3	-	DP4	○	DP5	-	ナンバリング	CH31201J

学習課題（予習・復習）	1 回の学習目安（時間）

授業外での課題への取り組みや授業内容の復習・資料整理など	4

授業計画	
第１回	教育相談とは：オリエンテーション及び概説と幼稚園教育要領等との関連
第２回	教育相談の対象となる諸問題：学校や家庭で教育相談の対象となる問題について学ぶ
第３回	開発的・予防的取り組み：諸問題の予防や早期発見について学ぶ　（オンデマンド）
第４回	教育相談と心の発達：子どもの発達課題との関連について学ぶ　（オンデマンド）
第５回	カウンセリングとは：カウンセリングの３原則等、ロジャースの来談者中心療法の理論について学ぶ
第６回	マイクロカウンセリング：マイクロカウンセリングについてロールプレイ等を通して学ぶ
第７回	教育相談のロールプレイ１（基礎的な姿勢や技法の実践）：ロールプレイを通して基礎的な姿勢や技法の実践を学ぶ
第８回	様々なアプローチ１（プレイセラピー・行動療法）：プレイセラピーや行動療法について学ぶ
第９回	様々なアプローチ２（エンカウンターグループ）：構成的グループエンカウンターについてロールプレイを通して学ぶ
第 10 回	教育相談の流れ：教育相談の開始から終結・引継ぎに至る流れを学ぶ　（オンデマンド）
第 11 回	子育て支援と教育相談：保護者支援について学ぶ
第 12 回	校内での相談システム・連携と教育相談：校内での連携などについて学ぶ
第 13 回	専門機関との支援ネットワークと教育相談：専門機関との連携について学ぶ　（オンデマンド）
第 14 回	教育相談のロールプレイ２（事例に基づいた実践）：事例を基にロールプレイ
第 15 回	教職員のメンタルヘルスへの支援とまとめ：教師自身のメンタルヘルスと支援について学び、まとめ
テキスト	プリントを授業時に配布または LMS（googleclassroom）にて配信します。
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	森田健宏・田爪宏二（監）（2024）教育相談　ミネルヴァ書房 幼稚園教育要領解説（平成 29 年改訂）文部科学省
課題に対するフィードバックの方法	学習相談：授業終了後及びメール等で適宜 学習成果のフィードバック：課題などは授業内で返却し（最終回の課題や Moodle での課題を除く）、成果や課題について授業内で取り上げてコメントします。
学生へのメッセージ・コメント	「子ども家庭支援の心理学」で対人支援のための心理学的知識を身につけておくことが望ましい。 「保育の心理学」で子どもの認知発達についての知識を身につけておくことが望ましい。